

## 欧州での交流（中島今朝吾）

- ・北白川宮成久王の[ウィキペディア記事](#)に以下のようにあります。

「1921年（大正10年）より軍事・社交の勉強のため、「キタ伯爵」の仮名でフランスのサン・シール陸軍士官学校に留学。

（中略）

1923年（大正12年）、滞仏中に自動車の運転を覚え、（中略）...1923年4月1日には「ノルマンディー海岸の避暑地ドーヴィルまで泊りがけでドライブに行かないか」と稔彦王を誘う。稔彦王はここでも「あなたの運転は、失礼ですが、まだ十分でないからお止めなさい」と忠告したうえで、イギリスに行く約束があることを理由にこれを断って、ロンドンに向かった。

そこで成久王はドライブの相手を同じく留学中の朝香宮鳩彦王に変え、同日朝に妃の房子内親王、御用掛エリザベート・ソビー（Elisabeth Sauvy）、運転手ヴィクトール・デリア（Victor Déliât）と共にドライブに出発した。

午後4時30分、パリ西方約140kmの地点で自動車事故を起こし、20分後に薨去した。また、後部座席の房子妃と鳩彦王も、それぞれ重傷を負った。

成久王の亡骸はパリに移送され、4月3日夕に駐仏日本大使館に到着した。霊柩は4月21日にパリを発ち、22日にマルセイユを経由して日本郵船の香取丸で帰国の途についた。」

- ・1923年4月に交通事故死した北白川宮成久王の後部座席で重症を負った朝香宮鳩彦王、彼は1922年10月から1925年12月まで「朝伯爵」の仮名でフランスに留学しています。
- ・一方、中島今朝吾の[ウィキペディア記事](#)には次のようにあります。

「1918年（大正7年）9月21日には軍事研究員としてフランス駐在を命じられ、横浜を出港する。1919年（大正8年）10月、フランス陸軍大学に入学。12月1日、砲兵少佐に昇進する。12月22日、新たに陸軍兵器廠付ヨーロッパ出張を命じられる。1920年（大正9年）9月、フランス陸軍大学を卒業する。11月10日、平和条約実施委員兼派独陸軍監督を命じられ、ドイツ駐在となる。1923年（大正12年）5月31日、パリで事故死した砲兵大佐北白川宮成久王に扈從して香取丸にて帰国。神戸に帰着。」

以上、中島今朝吾はフランスの陸軍学校に留学する北白川宮成久王の先輩でした。そして交通事故死した北白川宮成久王と共に中島今朝吾は帰国しているのです。中島今朝吾は北白川宮成久王と情報交換していたであろうし、交流があったと見るのが自然です。同様に1920年から1926年までフランスに留学した東久邇宮稔彦王、そして1922年から1925年12月までフランス留学していた朝香宮鳩彦王とも中島今朝吾は交流があったと見るのが自然です。

ちなみに中島今朝吾はあの陸軍習志野学校の初代校長（1933年）です。